

# 田原総一朗の 連載インタビュー・40

## 主役を撃つ



窪川、日高で原発をストップさせた反対運動も、元はといえばこの人物の「たった一人の反乱」だった。「推進側はなぜデータを隠すのか」と、氏は早速5/26号の森一久氏に反論するが……。

五月二十六日号で日本原子力産業会議専務理事の森一久を直撃したが、今回は、逆に原発反対派の旗手的存在である広瀬隆に問うた。

——森一久さんの見解について、の広瀬さんの意見、反論を具体的に聞きたいのですが、その

……まあ、偶然いろいろ気がついたんで……」

このせりふだけ読むと、何とも素っ気ない、とつきの悪い人物だと感じられるかもしれない。

### 当局の数字は信用できるか

……まあ、偶然いろいろ気がついたんで……」

このせりふだけ読むと、何とも素っ気ない、とつきの悪い人物だと感じられるかもしれない。

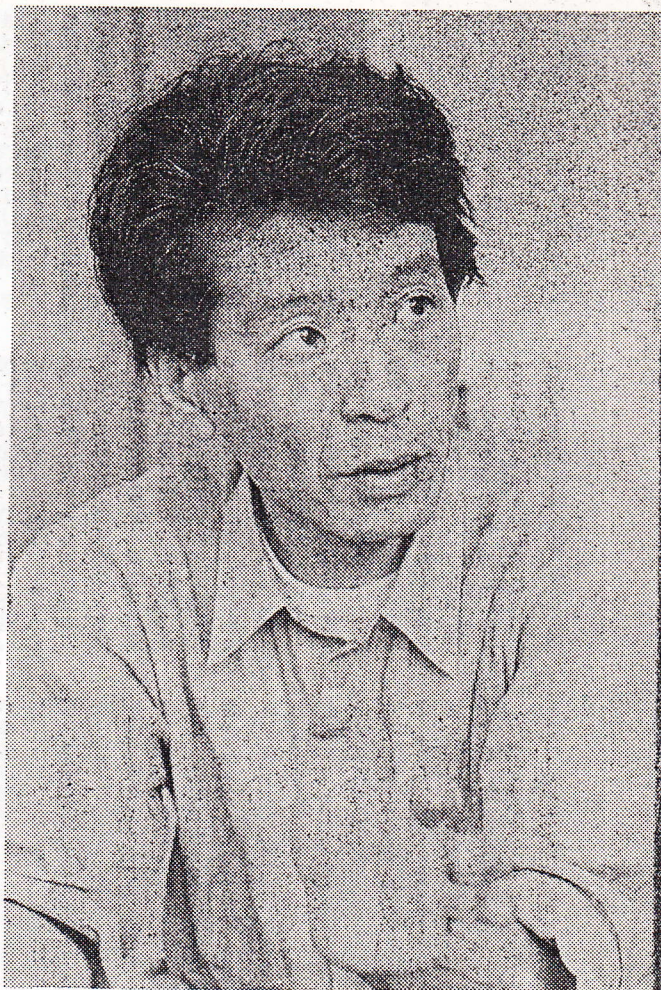
……まあ、偶然いろいろ気がついたんで……」

このせりふだけ読むと、何とも素っ気ない、とつきの悪い人物だと感じられるかもしれない。

「数年のうちに日本でも大事故が……」

原発ウオッチャー「大予言」の真意を問う





作家

# 広瀬 隆

「もう、ムチャクチャなファシズムですよ」

——話を戻して、森さんの見解に対して、他にはどこか異論がありますか。

「伊方の出力調整実験で、森さんは、こっちがずいぶん危険を煽っているような言い方をしていますが、私から言わせれば、電力会社の幹部の人たちは、その危険性が本当にはわかっていない。はつきりいえば無知だ」

——この間、「朝日新聞」(五月二十六日付)で、広瀬さんは電力会社の原子力担当部長や東大の教授たちと討論されていたけれど、当然伊方の出力調整実験も問題になったのでしょうか？紙面には載っていないかったけれど……。

「結局、論理のすれ違い。議論がかみ合わない。そのことがはつきりわかりましたよ」

## 黒く塗りつぶされた「資料」

——「かみ合わない」というのはどういうことかな。どこがどうかみ合わないのですか。

「はつきりいいますと、私が特に心配なのは重大事故の問題と、

に指摘してください。

「重大事故の問題でいえば、ともかく中部電力の浜岡原発で起きた再循環ポンプ二台が停止するという大変な事故、それから敦賀一号で出力が異常に上昇した危険なできごとにしても、向こう側はデータを出さないで、安全だ、大丈夫だと言っているだけなんです。安全なら、なぜデータを出さないのか。たとえばこれを見て下さいよ」

そう言って広瀬は、コピーの綴りを示した。敦賀市が「安全性に関するデータ公開の原則」に基づいて出した資料だ。随所に黒く塗りつぶされた箇所がある。

「こんなもの、データ公開にも何もありませんよ。これじゃ、出力の異常上昇がどの程度のものであったのか、本当に危険だったのかどうか見当がつかない。ひどいですよ」

——そのことを言うと、相手側は何と答えますか。

「企業秘密だとか、核物質防護のためだとか。『朝日新聞』の討論のときも、東電の人や東大の教授がそんな言い方をしていました」

広瀬さんの言うようにインチキかどうかは、ちょっと私には判断がつかないけれど？

「当局の数字なんて絶対に信用なんかできませんよ。田原さん、最近原発で問題になっていて現地に行っていないでしょう」

——最近行っていない。

「だから、おわかりにならないのだから、私は各地を回っていて、現にこの日本でもすごいファシズムが起きていて、信じられないようなことが山のように起きているのですよ」

——たとえば、どんなこと？

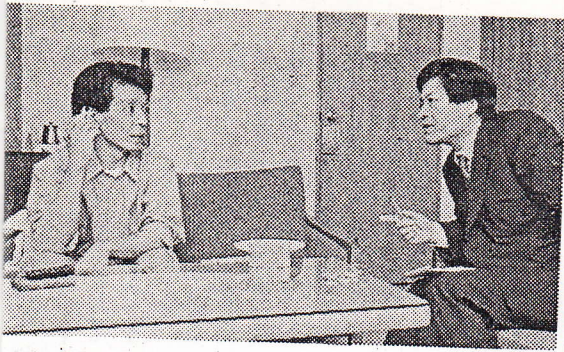
「それは実物を見ていただくがよくわかるのだけれど、(と言

って、「閩根警察官駐在所便り」と印刷されたチラシを示した)これは青森のむつ市とその周辺でバラまかれたチラシで、たとえば『無差別殺人集団極左を倒せ』なんてこの大見出し。ひどいでしょう」

——無差別殺人集団極左ってどういう連中のことですか。

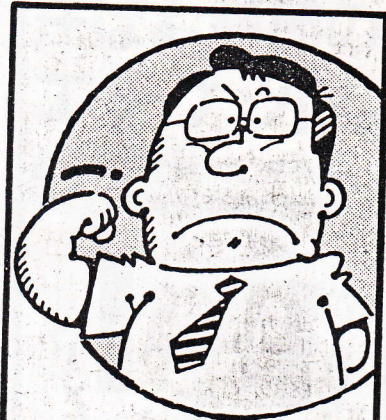
「私たちのことです。だから、普通のお母さんたちが原発批判の集会に出ても、極左暴力集団にされてしまう。現に伊方の出力調整のときには、ただステッカーを貼っていただけの女性逮捕され、なんと四国電力の中に連れ込まれた。明らかに電力





「朝日新聞」の討論では、「安全に関して必要なデータは出している。ただし生データを出すかどうかは別だ」と答えていましたね。

「役所などには出している」と言うのですよ。ここが論理の



# 気力は体力

## ●滋養強壮●虚弱体質

○滋養強壮○虚弱体質○肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

# キョーレオピン



湧永製薬株式会社

大阪市福島区福島3丁目1-39 ☎06(458)8901  
東京都千代田区三崎町1丁目3-12 ☎03(293)3351

すれ違い、かみ合わないところなのです。

——廃棄物の処理問題についてはどうですか。森さんの説明では、高レベルの廃棄物はガラス状にして、鉄の容器に入れて、さらに万が一放射能が漏れても、それを吸着するような素材で外側を包み込んで地中に埋めるとのことだったけど？

「それが、廃棄物の処分場に予定されている場所だけど、六ヶ所村と北海道の幌延……。これはちょっと掘れば水浸しというひどいところなんですよ。こんなところに埋めるなんてムチャクチャだ」

——地盤がしっかりしていて地震のない、なんて事前調査はしていないのかな。森さんの話では万全を期しているということだったけど？

## 「企業の論理に騙されるな」

——その点が重要なんだけど、森さんの説明では、確かに発電能力から使用量を引くと一見、原発分ぐらいいのゆとりがありそうだが、定期検査などが必要なので、実際には原発などではやっていけないのだということなのですがね。

「それにしても、森さんは発電能力から三割を引くと言っていますね。こんな数字、電力会社の人にもびっくりするんじゃないのかな。明らかにオーバーですよ」

——点検などで二割。ハパー

よ。要するに根本に矛盾、嘘がある。だいたい、今、真夏のピーク時だって電力は余っている、原発なんていらんのですからね」

セントは安全弁としてキープしておくんだということですがね。

「あ、そうですか」

——「朝日新聞」の討論で、この問題はとことん詰めなかつたのですか。一番の基本だと思いませんか？

「彼らも定期点検だと言いましたよ。しかし、どうしてわざわざ一番暑い、電気を一番使うときに発電所を止めて点検しなきゃならないのですかね。点検なんて、もっと電力需要が少ない

ときにやりやあいじゃないですか」

——そのことは突っ込まなかったのですか。

「言いましたよ。そしたら、安全のためのスケジュールが組んであるんだと言うのです。話になりませんよ」

——うーん。原発分は本当は余っているのか、それとも必要なのか。そのことを森さんに突っ込んだら、電力会社は儲けなきゃならないわけで、膨大な金を使ってよい設備、つまり原発ですね、そんなものをつくるなんてことはしないと言っているがね。事実原発を少しでも効率よく使う、つまりケチケチ運転をやるために、四国電力の伊方原発の出力調整実験をやったわけでしょう？

「いや、逆ですね。原発をどん



どんつくっているからこそ、出力調整をしなきゃいけないのですよ。基本的に原発は余っているのですよ」

「しかし、出力調整というのはケチケチ運転なのじゃないのかな？」

「あのね、電力会社は今、一所懸命になって電力の使用量を増やそうとしている。石油がなくなるから原子力だとか、電力の安定供給のために原発が必要だとか、いろんなこと言っている。だが、彼らは本当にエネルギーの問題や安全性なんか考えていませんよ。要するに企業の論理で、やたらに電力を売りつけようとしているだけだよね。その意味では、電力会社の論理と私たち市民の論理とは絶対に合わない。合っちゃいない。だから、原発の安全性を考えると」

には、電力会社を切り離して考

えなきゃだめです」

## 「田原さん、甘いですよ」

「そなんですがね。私も原発は危ないモノだと思っています。他に安心できる新しいエネルギー源が見つかれば、逃げたほうがいいと思っています。石油や石炭には限りがあるわけですから……。しかし、現在のところは残念ながら、まだ見つからない。そこで危険なエネルギー源、原発に対するウォッチャーとしての広瀬さんや高木仁三郎（原子力資料情報室代表）さんなどの役割は重要だと思っています。だからこそ言いたいだけだ。電力会社はダメだ。切り離せ」という広瀬さんの考え方には異論ありません。だって電力会社の人間たち

は、一方では電力の消費者でもあり、何よりも事故が起きたら一番危ないところにいるわけでしょう。少なくとも現場の職員たちは……」

「だから、現場を見ていないと抽象論に行くわけですよ。たとえば、伊方原発の出力調整実験のとき、四国電力の原子力部長が出てきました。彼に質問したときに、彼は何と私が出した新聞記事を一所懸命読んでいたのですよ。あの場合は敦賀原発の事故の記事だったのですが、つまり知らないわけ……。他の原発のことは全然知らない」

「言ったのは、そのことですか？」「森さんにしたって、この前のインタビューで、伊方の実験はチェルノブイリのケースとは全然違う、だから安全だと言っています。私が計算した限りでは、秒速四千パーセントの割合で出力が急上昇して、日本の原発の安全体制でも間に合いませんよ。日本の場合、制御棒が入るのに二秒かかるんです。そのことは、私が説明すると四国電力の原子力部長も反論できませんでした。日本は安全……。なんて嘘ですよ」

「しかし、その考えられないことが、日本でここ数カ月の間にも何度も起きているのですよ。たとえば高浜原発で、部品が脱落してバラバラになって、蒸気発生器にぶら下がって、しかも炉心まで流れ込んでいた。その時点で、大飯も美浜も同じ部品を取り付けているので止めなければいけないのに、そのまま運転して、十二月十七日に同じ事故を起こしている。部品が一個でも炉心に入るといことは、原子炉の設計者ならゾッとする話なのですがね」

「その高浜の事故のことは「朝日新聞」の討論では出ていませんね。なぜ出さなかったのですか」

## 体力は能力

### ●滋養強壮●虚弱体質

○滋養強壮○虚弱体質○肉体的疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

# レオピンプライブ



湧永製薬株式会社  
大阪市福島区福島3丁目1-39 ☎06(458)8901  
東京都千代田区三崎町1丁目3-12 ☎03(293)3351



# 汗ばむ季節の エチケツ。

発汗作用をおさえ、汗の臭い、  
ワキガ、体臭を予防します。



●特製エキシウクリーム  
徳用 68g 2,600円 / 20g 1,200円

●エキシウスプレー式 85ml 2,000円

ご使用の際は「使用上の注意」をよく読んで  
正しくお使いください。

**特製エキシウ  
クリーム**

東京都千代田区岩本町3-10-9  
株式会社 東京甲子社

岡原発の事故については、「原  
発の安全性にとつては問題とな  
る事故ではなかった」と答えて  
いますね。おそらく高浜の事故  
も同じ答え方をするのはない  
のかな。

「強弁ですよ。とにかく『大丈  
夫だ、大丈夫だ』と繰り返すば  
かりで、私が『なぜ大丈夫なの  
か』と問うと、『大丈夫な設計  
になっているのだ』と、これだ  
けなのですからね。だから、そ  
んなに大丈夫ならデータを出し  
なさいと言っているのですよ」

——ともかく、原発はとてつ  
もない危険性を内包していて、  
新しい安全なエネルギー源が見  
つかるまで慎重の上にも慎重に  
やっていかねばならないわけ  
で……。

「田原さん、それは甘いです  
よ。現状はそんな悠長なことが  
許される状態ではないのです

よ」

——そんなんだな。例えば広  
瀬さんの『危険な話』などの中  
に、数年のうちに日本で大事故  
が起きるとか、アメリカ、ソ連  
と大事故を起こして、今や日本  
が最も危険な国だとか、極めて  
断定的な表現があつて、あれは  
私は、広瀬さんにとって損だと  
思うな。

## 広瀬さんに言いたいこと

「富士山の噴火と一緒にするの  
はひどい。全然次元が違います  
よ。私は、今起こっていること  
を、あまりにもみんなが理解し  
ていない、だから強く警告して  
いるのです。だって高浜の部品  
がはずれてガラガラ回っていた  
こと。これは事実で、もしもこ  
れがちょっと弁にはさまった  
ら、スリーマイル島とおんなじ

「いや、私は、もっと早いと思っ  
ています。今の感じでは……」  
田原さん、甘いですよ」

——そうかな。いつか、富士  
山が噴火すると予言してマスコ  
ミが大騒ぎし、結局はずれたこ  
とがあったけど、数年後にもし  
も大事故が起きなかつたら、そ  
れと同じように扱われてしまひ  
ますよ。

ことになるのですよ」

——それに対して、推進側は  
安全系統には関係がなかったと  
いう……。私を含めて国民の多  
くは、本当のところどっちの言  
い分が正しいのかよくわからな  
い。よくわからないままに、ど  
っちが信用できるか、どっちの  
言うことを聞いたほうがいいの  
かと、不安いっぱいの中で懸命

に見比べているのですよ。だか  
ら、何より大事なことはデー  
タ、そして議論の厳密さ、正確  
さでして……。

「そのとおりです。だから私  
は、いつも資料を出して、厳密  
に議論しようと言っているの  
ですよ」

——わかりますよ。だから、  
数年内に大事故が起きるとか、  
そういう危険な断言はしないほ  
うがいいと思うし、それから、  
電力会社はだめだ、マスコミは  
だめだ、などと言って、わざわ  
ざ孤立するようなことはしない  
ほうがいい。そんなことをして  
いると、どんどん過激派のイメ  
ージになってしまいますよ。

「だって、このまま行けば、本当  
に大事故が起きますよ。原子炉  
が古くなってきて、压力容器や  
何か、すごく危ない状態になっ  
ているのですよ。それに、私は

「そんな余裕があればいいんだ  
けど、事態は全くそうじゃない。  
田原さん、甘いですよ。きょう  
事故が起いたら、田原さん、  
真っ青になるでしょうが、事態  
はそこまで来ているのですよ」  
広瀬は、そう言っ私を凝視  
した。反論を許さない思い詰め  
た表情だった。